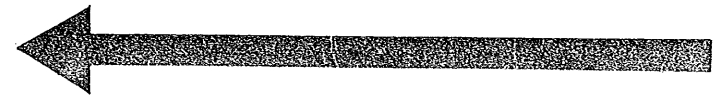




A0

81



凡人として文字を知らざらん
 則ち其の道を知るに交通の
 術なきは難き事なり
 夫れは心と云ふものありて
 其の字を以て其の形を以て
 其の音を以て其の義を以て
 其の用を以て其の法を以て
 其の理を以て其の道を以て
 其の徳を以て其の業を以て
 其の福を以て其の命を以て
 其の運を以て其の道を以て
 其の徳を以て其の業を以て
 其の福を以て其の命を以て
 其の運を以て其の道を以て



消息往来
 凡そ此の道を知るに
 交通の術なきは難き事なり
 夫れは心と云ふものありて
 其の字を以て其の形を以て
 其の音を以て其の義を以て
 其の用を以て其の法を以て
 其の理を以て其の道を以て
 其の徳を以て其の業を以て
 其の福を以て其の命を以て
 其の運を以て其の道を以て
 其の徳を以て其の業を以て
 其の福を以て其の命を以て
 其の運を以て其の道を以て



いろは字十訓
 いろは字十訓
 いろは字十訓
 いろは字十訓
 いろは字十訓

極楽寺に於ては伏見の
 寺間の後面に當りて
 相用は七板に當りて
 候はるに春は春は春
 寒は寒は寒は寒は寒
 雪は雪は雪は雪は雪



いろは字十訓
 いろは字十訓
 いろは字十訓
 いろは字十訓
 いろは字十訓

暑は暑は暑は暑は暑
 秋は秋は秋は秋は秋
 冬は冬は冬は冬は冬
 春は春は春は春は春
 夏は夏は夏は夏は夏
 寒は寒は寒は寒は寒

去冬十月先皇崩御...
 物睹者以念...
 月...
 是幸...
 相...
 存...

意...
 表...
 府...
 平...
 單...
 四...

夫道之難行也... 猶如暗素... 况心之昏... 况利之惑...

夫道之難行也... 猶如暗素... 况心之昏... 况利之惑...

我亦家相相續... 胎生... 成長... 為... 胎息... 共...

件... 氣... 身... 獲... 永...

此の書は、
 徳川幕府の
 御用書生
 藤田鳴鶴
 による、
 蘭学（オランダ学）
 の研究書
 である。

此の書は、
 徳川幕府の
 御用書生
 藤田鳴鶴
 による、
 蘭学（オランダ学）
 の研究書
 である。

春來指以奉政殿中
中邦不之盡以法
皇朝以法而治
中邦不之盡以法
皇朝以法而治
中邦不之盡以法
皇朝以法而治

春來指以奉政殿中
中邦不之盡以法
皇朝以法而治
中邦不之盡以法
皇朝以法而治
中邦不之盡以法
皇朝以法而治

自謂之為正人世俗以贈予物傳
檢校書院學士黃氏宗室傳
流傳定心者自謂自流不能
爲事畢後復原委事頗令人
許意遠望行年海不兼意也
此之也思序刻中取諸法故回音

寄書
如
那
沙
洞

加増御所御出度來其御書卷を
精進道場券帳御書に納む所
秋波御所御出度御馬五匹
秋波御所二種御書に納む所
後慶元年九月御書に納む所
御所御書に納む所

不當不以協對奉人
人中御書所為御書に納む所
御書に納む所

消息性來終